

令和5年1月

第71号



NPOグラウンドワーク東海

パートナーシップで地域の環境創造を

News Letter

特定非営利活動法人グラウンドワーク東海

〒453-0016 愛知県名古屋市中村区竹橋町2-1番4号
(クラーク株式会社 内)

TEL 080-5157-7203

E-mail : npo.gw-toukai@npo-gwtoukai.org

http://www.npo-gwtoukai.org/



新年のご挨拶

特定非営利活動法人グラウンドワーク東海理事長 竹谷裕之

新年、明けましておめでとうございます。この新しい年が団体会員、企業会員、個人会員の皆様、そして関係各位の活動や取り組みが、時代のニーズに応え、さらに大きな成果を上げる年になりますよう、ご祈念申し上げます。



さてコロナウイルス感染の第7波から第8波が続き、また円安と資源・素材価格高騰の影響が拡がり、暮らしも仕事も大変ですが、コロナ禍の行動制限が緩和され、グラウンドワーク東海は、①グラウンドワーク東海総会 7月3日、②あいちサマーセミナー：7月17日、愛知東邦大学・東邦高校、③飛騨市連携可能性現地調査 7月23・24日、④環境デーなごや出展 9月17日、⑤飛騨市種蔵にてミョウガ畑の冬支度、⑥種蔵村にて岐阜大学との連携フォーラム開催 10月29・30日と、活動が再開できたことは、本当によかったと安堵し、やりがいを実感しています。活動団体として会員の皆様とエネルギーを分かち合うことに直結するので、その重要性を改めて再認識しています。

会員各位におかれても、このコロナ禍における現場活動の変容は、再開・継続に向けて新たなエネルギーを必要としています。

サマーセミナーから得たことですが、虫を見たことがない、中・高生以下の子供が増えているとのこと、養殖虫の放流が一般的で、虫と生態系のつながりを話しても、単なる話になってしまいます。これを打開するには、今の子どもたちが関心を持つ未来志向の課題、SDGsなどと結びつけ話すことが必要であると感じています。

温暖化による気候危機、生物多様性の危機、プラスチックの陸域・海域汚染など、地球規模の問題も、戦争や大国間、先進国・途上国間の対立で、取り組みが弱体化し、未来が見えてきません。その中で日本の全市町村の過半が過疎地域となる中、GW東海はこの50年間で57%人口が減少した岐阜県最北部の飛騨市で地域の自然社会の実態を身体で感じ、「関係人口を汗繫人口へグラウンドワーク活動ができること」をテーマに、住民と行政と企業をつなぐ支援活動を模索しています。

今年は春先に岐阜大学などと連携して、2回目のフォーラムを計画しています。現場とどう向き合うかはなかなか重要なテーマですが、現実に対応を迫られる問題だけに、若い力を得

ながら経験や課題を交換し合うことは、GW東海だからこそできる活動であると思います。

グラウンドワークは、パートナーシップによる環境改善・地域活性化活動を正面に掲げ、取り組む組織です。住民を主体に行政と企業が連携するグラウンドワーク活動の固有の意義を改めて見つめ直し、新たな命を吹き込むこと、これがいよいよ大事な課題になっているのではないのでしょうか。新たな一年をグラウンドワーク活動が目指す地域の環境改善、地域興しの取り組みの輪を押し広げる年にしたいものです。





飛騨市は岐阜県の北部にあり市内を流れる宮川は富山市入ると神通川となり富山湾に流れる神通川水系です。これまでグラウンドワーク東海としては伊勢湾に流れ込む水系地域での活動が主体でしたので、飛騨市はこれまで活動の対象として捉えていませんでした。

飛騨市は全国の倍のスピード人口減少する過疎地域で、日本の30年後を上回る高齢化率となっている市で、人口減少に歯止めをかけたらずに受け止めて立ち向かっていく、人口減少先進地としてその課題を解決する方法を考えることができれば全国のモデルになる。そのような課題先進地の中で課題解決先進地を目指していくという考えから、地域の活力を得るために地域外の人との交流をどのようにするかということから2017年1月から飛騨市ファンクラブを創設し、さらにそのファンクラブの中に汗をかいてくれるファンをつくる関係案内所「ヒダスケ」が2020年4月に創設

され、地域資源の活用や市内からの課題を吸い上げプログラム化し、地域外の人材とマッチングを行っています。今年の9月までに50種類以上のプログラムに7,000人以上が参加しています。

この「ヒダスケ」の取組はグラウンドワーク活動と同様に行政、企業、住民の三者が協働して問題解決を行っています。そこで昨年2月20日に開催したグラウンドワークフォーラムに飛騨市長の都竹淳也氏に『関係人口から汗繫人口へ～リアルな飛騨へ～』と題して基調講演をおこなっていただきました。

2月にはグラウンドワーク東海会員へのアンケート調査を実施し、7月には飛騨市の現状視察をおこなった後、グラウンドワークフォーラムを10月29日に飛騨市宮川町種蔵地区でのヒダスケ『myみょうが畑プロジェクト』に合わせて、現地にて活動する皆さんと開催しました。

【開催概要】

- 日 時：2022年10月29日（土）16時30分～17時50分
- 場 所：板倉の宿種蔵（飛騨市宮川町種蔵37-2）1階
- 主 催：NPO法人グラウンドワーク東海
- 後 援：飛騨市

フォーラムの開催前にみょうが畑で冬支度のためのみょうがの刈り倒しやわら敷きの「ヒダスケ」を行いました。

フォーラムでは、平田宮川振興事務所長の来賓あいさつを受けた後、岐阜大学の高木先生から種蔵における新そばまつりでの学生の関わりや、岐阜県の補助金を得た2018年からの棚田の石垣や獣柵の補修などにも関わってきた岐阜大学としての活動の概要報告を受けました。

その後、岐阜大学学生一人ずつ、活動の感想などを話してもらい、種蔵の作業に関わったことが大きな経験になったことや、クックパッドで種蔵みょうがを使ったレシピ募集を行っていることなどの昨年度までの報告に合わせて、今年度は種蔵の集落内で「種蔵GO」という位置情報ゲームを開発し、始めたことの報告も合わせて行われました。岐阜大学の学生の感想、報告の後にグラウンドワーク東海側の参加者から種蔵地域の感想や「ヒダスケ」参加の感想が述べら、フォーラムのまとめとして、原田副理事長から学生たちの活動が卒業してからも場所が違って地域活動に関わり、この経験を活かしてもらいたいとフォーラムを終了しました。

今回のフォーラムでは後継者不足でみょうが畑が荒廃していく種蔵地区で、学生たちが農作業の手伝い以外に関係人口と楽しめるメニューを考えながら地域を盛り上げることも大切なことだと思いました。

（記事 原田郁郎）



今後の活動予定
令和5年2月予定 グラウンドワークフォーラム2022 第2回

会費納入のお願い

個人正会員 10,000円/年/口
個人協力会員 3,000円/年/口
企業・活動団体 事務局へご相談ください。

<会費振込先>

ゆうちょ銀行 記号12160 番号45969591
特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海
三菱UFJ銀行 店番150 普通 番号5759603

発行責任者 竹谷 裕之
編集責任者 伊貝 久
発行元
特定非営利活動法人
グラウンドワーク東海